

# 平成25年度「全国学力・学習状況調査」逗子市の分析結果（中学校）

## ○はじめに

平成25年4月24日に「全国学力・学習状況調査」（以下「全国学力調査」という。）が行われました。

実施内容は「国語」と「数学」の2教科で、それぞれ「主に知識に関する問題A」と「主に活用に関する問題B」がありました。併せて、子どもたちの生活実態の質問紙調査も行われました。

今回の調査は、生徒の学力・学習状況を全国的な状況との関係において把握・分析するとともに、分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善に活用すること、本市の教育施策の成果と課題を把握しその改善を図ることを目的としています。

なお、ここでいう学力は全国学力調査で測ることのできた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

## 1 実施状況

○調査実施日 平成25年4月24日（火）

- 実施教科 ①教科に関する調査（国語、数学）
- ・主に知識に関する問題（国語A、数学A）
  - ・主に活用に関する問題（国語B、数学B）
- ②質問紙調査（生活習慣や学習環境等）

○実施学校・学年・調査数 逗子市立中学校3年生385名

## 2 逗子市の調査結果の概要（中学校3年生） \*（）は全国の平均正答率との比較です

### （1）国語A 主に知識に関する問題

- ① 国語Aの設問32問中、全国の平均正答率を上回ったのは20問（内5%以上は3問）、下回ったのは12問（5%以下は1問）でした。
- ② 全体としては、全国の平均正答率とほぼ同程度の結果でした。学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の四領域にわたっての出題で、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は概ね良好でした。

### （2）国語B 主に活用に関する問題

- ① 国語Bの設問9問中、全ての設問で全国の平均正答率を上回りました（内5%以上は6問）。
- ② 全体としては、全国の平均正答率をやや上回る結果でした。「書くこと」「読むこと」は概ね良好でしたが、文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られました。

### （3）数学A 主に知識に関する問題

- ① 数学Aの設問36問中、全国の平均正答率を上回ったのは27問（内5%以上は2問）、下回ったのは8問（5%以下は1問）、同率は1問でした。
- ② 全体としては、全国の平均正答率とほぼ同程度の結果で、「数と式」の領域は概ね良好でしたが、資料の活用に課題が見られました。

### （4）数学B 主に活用に関する問題

- ① 数学Aに比べると、全体的に正答率は下がりましたが、数学Bの設問16問中、全国の平均正答率を上回ったのは9問（内5%以上は1問）、下回ったのは7問（内5%以下はなし）でした。
- ② 領域別に見ての課題はありませんでしたが、結果を数学的な表現を用いて説明する等の記述式問題形式の設問では正答率が他の設問（選択式問題形式・短答式問題形式）に比べて低くなっており、課題が感じられました。

### 3 調査結果を踏まえた指導の改善

#### ■国語

学習指導要領に示されている四領域をバランスよく指導することはもちろん、各領域を関連付けてそれぞれの能力を培う指導を国語の指導全体を通じて大切にしていきます。

《具体例》○思考力を伸ばすために、自分の言葉でまとめることを習慣付ける ○日常的な漢字の学習（書く・読む） ○辞書を使う習慣を付ける ○話し合いは目的を明確にし、課題に沿って考えを深め、他者の考えと自分の考えを比較する ○自分の書いた文章を読み返したり、生徒同士、互いの文章を読み合う ○実用的な文章から必要な情報を探したり、関連性を読み取ったりする

#### ■数学

基礎・基本の定着を図ることにとどまらず、式の意味をしっかりと理解させること、生活体験に結び付けて数学的な考え方を活用できること、数学的な考えを深めさせる等の指導を大切にしていきます。

《具体例》○分数や小数を含む計算指導の充実を図る ○事柄や数量の関係を文字式で表したり、その文字式の意味を読み取ったりすることができるようにする ○数学的な考え方を、生活体験に結び付けて活用する ○思考の過程を大事にし、自分の言葉で説明する

\* 以上の点について、ご家庭の協力を得て、日常的に生徒を支援していきます。

### 4 質問紙調査の回答から見えてくること

■地域教育力：地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒の割合と、地域の行事へ参加している生徒の割合が5割程度と全国とほぼ同程度であるものの、地域や社会をよくするために何をすべきか考えている生徒は3割に届かない結果でした。地域の協力を得て郷土の伝統・文化を学び、郷土愛を培っていけるよう支援していきます。

■自己肯定感：「自分にはよいところがあると思いますか」という設問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を選択し、自己肯定している生徒の割合は、全国を5%以上上回っています。また、人の役に立ちたい、人の気持ちが分かるようになりたい、いじめはいけないという意識は全体としては、ほぼ全国と同様に高い割合でした。

■学校生活：「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問事項に対しては、75%を超える生徒が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答し、「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」という質問事項に対しては、90%を超える生徒が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答しています。学校での生活は友達に会ったりすることが楽しいと感じている生徒が多い様子がうかがえます。「国語」や「数学」の学習については、その大切さを感じている生徒が多く、比較的前向きに取り組んでいます。生徒がより一層意欲的に授業に取り組み、内容をより理解することができるよう、指導の工夫・改善を図っていく必要があります。学習指導要領の目標を達成できるよう、これまでの学習内容を精選し、ねらいがより明確になるように取り組んでいきます。

■家庭学習：家での宿題や予習・復習については、全国・県に比較すると十分な状況とはいえない結果でした。基礎学力の向上には授業のあり方だけでなく、自主的な学習が有効だといわれています。小学校入学時から義務教育終了時まで継続する「自主的な家庭学習」の習慣をどう培っていくかを市内公立小・中学校の共通課題と認識し、小学校・中学校・家庭との三者の連携を深めながら、指導方法の工夫・改善を今後とも図っていきます。